

【授業の概要】

領域「言葉」の内容についての理解と、それらを踏まえた上で、乳幼児が発達に応じて豊かな言葉や表現を身に付け、伝え合いや想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。具体的には「言葉」の意義と機能について理解した上で、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするための知識を身に付ける。

回数	題目	授 業 内 容
1	オリエンテーション	保育において基本的な理念の理解を図りながら、本講義で扱う内容についてのオリエンテーションを行う。また、「言葉」に関する意識調査をもとに理解を深める。
2	領域「言葉」について	保育の5領域と「言葉」の関係について学び、他領域との関連性および言葉の領域は子どもの言葉の獲得に関する領域であるという認識を得る。
3	言葉とは何か① 言葉の意義、機能の理解	言葉には、コミュニケーション、思考、文化という3つの柱があり、その絡みによって言葉は使用される。それを通してなされる社会理解に焦点を当てて学んでいく。
4	言葉とは何か② 命名の機能、弁別性	言葉にはいくつかの機能があり、それを理解する必要がある。名付けると言うこと、外部世界を区切って認識すると言う言葉の機能について理解する。
5	言葉の獲得① 母子相互作用の理解	言葉が子どもの中でどのように育っていくかを扱う。その最初期として、母子相互作用が言葉の発達に果たす役割について理解する。
6	言葉の獲得② 出生から3歳頃まで	非言語コミュニケーションから多語文へ移っていく段階を学び、また、人との関わりが友達同士へと広がって行く過程を理解する。
7	言葉の発達① 3歳頃から6歳頃まで	文法、構音などができあがっていく時期に向けてどのような言葉の発達を見せていくかを学ぶ。
8	言葉の発達② 読み書き能力の発達と理解	音韻意識の獲得がどのように読み書き能力へと繋がっていくのかを理解し、子供が書き言葉に興味を持てる環境構成を学ぶ。
9	言葉あそび①	言葉の対する感覚を豊かにする、様々な言葉あそびの知識を得る。
10	言葉あそび②	年齢、発達に応じた言葉あそびの取り入れ方を調査し、実践する。
11	児童文化財①	児童文化財の意義について学ぶ。
12	児童文化財②	様々な児童文化財の種類や歴史について知る。
13	児童文化財③	児童文化財を用いた保育の指導案を作成する。
14	児童文化財④	児童文化財を用いた実践(模擬保育)を行なう。
15	まとめ	模擬保育の振り返りとまとめを行う。

【評価の方法】

授業への参加度—25% 提出物—15% 小テスト—10% 筆記試験—50%

【テキスト】

『保育内容 言葉』徳安敦・堀科編著 (青踏社)

『常用漢字ダブルクリア』(尚文出版)

【参考書】

【研究】